

「研究業績書(様式2)」注意事項及び記載例

1. 研究業績書は、「研究業績掲載基準について」に則り、「様式2」の用紙を用いて、【著書】【原著】【総説・解説】【症例報告】【その他】【翻訳】【発表】の順に区分し、それぞれ発表年の古い順に通し番号を付して記載してください。
また、該当区分に業績がない場合は、「なし」と記載してください。
2. 論文記載基準
 - ① 雑誌 - 著者名.
 標題. 誌名 発行年; 巻: 頁-頁.
 - ② 単行本 - 著者名.
 標題. 書名, 版次, 出版社, 発行地, 発行年: 頁-頁.
 - 著者名の後は、改行してください。
 - 共著の場合は、著者全員の氏名を論文上の記載順に記載し、本人にアンダーラインを附してください。
 - 著書・論文の標題は**文頭のみ大文字**としてください。
 - 雑誌名は省略せず正式名で記載してください。
3. 【発表】の〈国際学会〉の標題は**文頭のみ大文字**とし、学会名は省略せず正式名称で記載してください。
4. 准教授の採用・推薦の場合、教育研究主要論文(様式3)に記載した3編以内の主要論文の番号に○を付けてください。
5. 体裁については、聖マリアンナ医科大学雑誌投稿規定及び本記載例に準じてください。また、フォントは「**MSP 明朝 10ポイント**」で記載してください。
6. 項目ごとに**年代の古い順**に記載してください。
7. ページ毎にヘッダ部分が必要です。

研究業績書(記載例)

西暦 年 月 日

氏名

印

【 著 書 】

1. 山田太郎.

○○○について. ○○○○学, 第 3 版, ○○出版, 東京, 1985:50-60. (ISBN 1234568090)

氏名は、「.」より全角一文字空けて記載

2. Mayer NG, Yamada T.

Calcium pump. In:Sencer NE and Naked K (eds), Physiology and Pathology of the Heart, 3rd ed, Mosby Publishers, London, 2002:527-545. (ISBN 12345678090)

3. 山田太郎

○○○○学, 第 3 版, ○○出版, 東京, 2003: (ISBN 1234568090)

①山田太郎, 木村一郎, 鈴木花子. 分担課題名:102-110.

②木村一郎, 山田太郎, 鈴木花子. 分担課題名:210-212.

番号は書名の最初の文字より全角一文字分空けて記載

【 原 著 】

1. 山田太郎.

○○における○○に関する研究. 聖マリアンナ医科大学雑誌 1999;1:1202-1208.

ページ数は省略せずに記載(例:「1202-08」の記載は不可)

2. Yamada T, Kimura I, Suzuki H.

英文の氏名は「姓+名前の頭文字」で記載

Air enema for diagnosis of intussusception:clinical experrience and pressure correlaters. Radiology 2002;150:345-350.

標題は文頭のみ大文字で記載(固有名詞を除く)

3. Kimura I, Yamada T, Suzuki H.

Urinary excretion of liver type fatty acid binding protein accurately reflects the degree of tubulointerstitial damage. The American Journal of Pathology 2009;30:567-568. doi:10.2353/ajpath.1234567

電子文献(電子ジャーナル等)は、doi コードを記載

4. 山田太郎, 木村一郎, 鈴木花子.

高齢者転移性脊椎腫瘍の術後成績の検討. 日本○○医学会雑誌 2013;(印刷中)

【 総説・解説 】

1. 山田太郎, 木村一郎, 鈴木花子.

○○代謝異常の視点から. ○○○○○誌 2007;62:90-91.

印刷中、掲載予定(査読済)の場合は、当該雑誌の発行元より「論文掲載証明書」を取寄せ添付

2. Kimura I, Yamada T, Suzuki H.

Roles of human liver type fatty acid binding protein in kidney disease clarified using hL-FABP chromosomaltransgenic mice. Nephrology 2011;16:55-57.

研究業績書(記載例)

西暦 年 月 日

氏名

印

【 症例報告 】

1. 山田太郎, 木村一郎, 鈴木花子.

〇〇〇〇を発症した〇〇患者の 2 例. 〇〇〇〇会誌 2011;7:109-110.

2. Kimura I, Yamada T, Suzuki H.

Successful treatment of delusional disorder with low dose aripiprazole. Psychiatry and Clinical Neurosciences 2012;62:1371-1372.

【 その他 】

学術雑誌に記載された「原著」「総説・解説」「症例報告」以外の論文

1. 山田太郎, 木村一郎, 鈴木花子.

野球の現場における超音波診断装置の使用経験. 〇〇〇学会雑誌 2011;7:6.

2. Kimura I, Yamada T, Suzuki H.

C-reactive protein in extremely low birth weight infants using evanescent wave immunoassay to make normative standards after birth. Pediatrics International 2013;52:777.

【 翻 訳 】

なし

【 発 表 】

発表は筆頭のみで、国内学会、国際学会、その他に区分し発表年月の古い順に記載

〈国内学会〉

1. 山田太郎, 木村一郎, 鈴木花子.

〇〇〇症患者の妊娠期における〇〇〇薬の使用実態調査, 第〇回日本臨床〇〇〇〇学会, 2005 年 10 月.

〈国際学会〉

標題は文頭のみ大文字で記載(固有名詞を除く)

1. Yamada T, Kimura I, Suzuki H.

Assessment of tracheobronchial stenosis using lateral airway pressure by airway catheter during interventional bronchoscopy, 16th World Congress for Bronchology, May 2009.

2. Yamada T, Kimura I, Suzuki H, Higasa I.

月は冒頭の 3 文字のみを記載

Association between severe bronchopulmonary dysplasia and serum HGF levels in preterm infants, Asian society of pediatric research annual congress, Oct 2012.

〈その他〉

1. 山田太郎, 木村一郎.

〇〇〇〇症候群〇例の検討, 第〇回〇〇〇研究会, 2005 年 11 月.